

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ヤマノファイト	▲	現4歳世代はレベルが高く、モジアナフレイバー、クリスタルシルバーが古馬混合の重賞で勝利。本馬は世代でもトップクラスの力を持っており、このメンバーに入っても全くヒケを取らないだろう。		
2	2	キャッスルクラウン		2走前の霜月杯でジャーニーマンに完敗。重賞では荷が重い。		
3	3	ゴールドパテック	△3	関東オークス以降、一貫して川崎2000～2100mのレースに出走。大崩れなく走っているのは魅力だが、唯一、馬券圏外に敗れたのが牡馬相手の戸塚記念（4着）。牝馬限定なら能力上位でも牡馬相手、それも重賞実績のある牡馬相手だとやや分が悪いかもしれない。		
4	4	タービランス	○	昨年は5戦のみに終わったが、その成績は【3.2.0.0】と連対率100%。負けた相手は全盛期のリッカルド（昨年の帝王賞4着）と本格化したスーパーステーション（昨年の東京大賞典6着）。2頭ともにダートグレードレベルにはゆうに達しており、負けた相手が悪かったと判断していい。		
5	5	ユーロビート		ノッシノッシと牛のように走る馬で、小回りコースの川崎は明らかに不向き。能力も衰えている。		
	6	タガノゴールド	◎	前走園田金盃では4着に敗れたものの、前残り競馬だった上、鞍上の笹田騎手が上手く乗りこなせず。前走の敗戦に関しては完全に度外視していいだろう。園田の3戦はすべて上り最速をマーク。レースの上りが39秒台になれば、どこまで行っても伸び続ける本馬の末脚が存分に生きてくるだろう。		
6	7	ナガラオリオン		地元なら中距離でも誤魔化しが利くかもしれないが、さすがに南関東ではスタミナ切れを起こすだろう。依然としてゲート難を抱えており、逃げられるかも未知数。		
	8	ハセノパイロ	×1	ハイレベルな4歳世代でクラシック路線の中心にいた馬の1頭。東京ダービーで本命を打ったように能力を高く評価しているが、今回はいかんせん6ヶ月の休養明け。馬自身、叩き良化型のイメージがあり、長期休養明けの今回は割り引いて考えるべきだろう。		
7	9	ガリバルディ		初ダートの前走浦和記念では勝ち馬オールブラッシュから5.4秒差の8着に敗退。ダート適性がない。		
	10	ディアドムス	×2	勝島王冠→報知オールスターカップの連勝時は南関東の中距離路線を引っ張っていく馬になるか？と思われたが、結局、最後に勝利したのが昨年と同レース。その後は走る気を失くしたような敗戦が続いており、年齢的にガラリー変を望むのは酷だろう。		
8	11	トキノパイレーツ	△1	転入初戦の芙蓉賞（川崎2000m）を2分10秒6の好時計で圧勝。次走戸塚記念では芙蓉賞で相手にならなかったムシカリに少し迫られており、戸塚記念は力を出し切った敗戦ではないだろう。軽量54キロなら実績ある古馬勢にも互角に太刀打ちできるイメージが浮かぶ。不安はやはり昨年未勝利の森下騎手。		
	12	ジャーニーマン	△2	川崎2000～2100mで【2.1.1.1】と好相性。いかにも地方だと距離の融通が利くサウスヴィグラス産駒で、マイルでも中長距離でも安定して力を発揮できる。メンバーを見渡す限り、マイベースの逃げを打てそうだが、単調な前残りにならないのが本競走。		